

目的 前報の如くは空中真菌と落下法と拂拭と、その中の12種の菌を分離培養し、検出程度の高かつた数種の真菌と実験的に布上の発育させ、織物への汚染機構を探討した。本報の如くは同様の方法で検出した真菌のうち、比較的濃い汚染となつた菌4種を試験菌として、前報同様の方法で分離培養し、布の汚染させ、その汚染状況から漂白剤処理による汚染の除去効果を探討した。

方法 *Epicoccum* sp. *Cladosporium* sp. *penicillium* sp. *Fusarium* sp. の菌株と種類の布の前報同様の方法で布上に生育させ、汚染させた後その菌核を除去した。また別に *penicillium*. *Epicoccum* を液体培養し、30日室内温で放置した後、培養液の布を7日同浸漬して汚染させた。そのうちの汚染布をサライ粉、ハイトロサールナイト、次亜塩素酸ソーダ、亜塩素酸ソーダ等の漂白剤で除去を試みた。その漂白剤処理による布の劣化状態を観察すべく、汚染布の織物から漂白剤処理後の汚染布の織物を可能な限り抜き取り、同じテストロシ型顕微鏡試験機を用いて測定した。

結果 木綿、レーヨン、はがれ織の菌による汚染もサライ粉による除去効果はかたがた顕著に認められた。またハイトロシ、サライエスチルも同様に亜塩素酸ソーダによる効果は認められた。羊毛、絹の如くは過酸化水素による効果は認められた。ハイトロサールナイトによる効果は認められた。従来はサライ粉の如くは認められ、また菌では *FUSARIUM* sp. による汚染された布が、除去後に如くは軽度の低下が認められた。